



刊行にあたって

CAD/CAMという言葉は、歯科界においてもいまでは当たり前のものとなりました。しかし、編集委員らがチェアサイドCAD/CAMを日常臨床に用い始めた10年以上前の時代では、あまりなじみのない先生方が多くおられました。現在でも多くの歯科医院では、通法に従いアナログで印象を採得し、ラボもしくはセンターにて石膏模型からスキャンしたデジタル模型を用いて、テクニシャンがCADとCAMを行うシステムであろうと思われます。この流れにおいて、歯科医師はデジタルの恩恵こそ享受しているとは言えども、使いこなしているとは言いきれません。しかしながら、昨今の急速なデジタルデンティストリーの普及により、患者の口腔内を歯科医師自らが直接光学印象を行うためのイントラオーラルスキャナーを、国内外の各メーカーより複数種類から選択可能な時代となりました。そのような時代の流れのなかで、「どのスキャナーを選択すればよいかわからない」、「どのようなシステムが適切であるかを検討する基準のようなものが曖昧である」という声を多く耳にするようになりました。

また、CT、マイクロスコープ、CAD/CAMが、歯科医院における三種の神器と言われるようになってからある程度の年月が経ちました。もはやCAD/CAMは、その言葉のもつ意味が口腔内スキャナーやチェアサイドCAD/CAMを指す時代にシフトしつつあります。

本増刊号がテクニシャンに依存したままのCAD/CAMではなく、あくまでも歯科医師主導のCAD/CAMという新たな時代の幕開けの手助けになることを信じて、編集委員一同は、本物の知識と豊富な経験をもつ先生方に執筆をお願いいたしました。本書が皆様を、「真のデジタルデンティストリーの世界」に導いてくれることを信じて止みません。

2017年6月
編集委員一同